

授業科目(ナンバリング)	専門演習 A (DA301)			担当教員	坂本雅俊		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
授業における演習プログラムのテーマは「ソーシャルワークに関する知見」についてである。学生は、社会福祉学の基盤としての「社会科学的認識能力」を身に付けることができる。特に、福祉利用者の実像を知るためにボランティアにでかけ、社会人として必要なパフォーマンスの力を体得する。そのため学生の理解度と興味に合わせて学習素材をその都度提供する。							②④⑥⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	社会福祉に関する興味ある社会問題を理解し文章で説明できる。				授業での意見交換	10%	
情報収集、分析力	福祉に関する情報を収集する力を付けることができる。				授業での意見交換	10%	
コミュニケーション力	ゼミ生同士で友好的人間関係を作る力をもつことができる。				福祉ボランティア研修	40%	
協働・課題解決力	仲間とともに社会問題について考え、協働して課題解決方法を話し、民主的に意見をまとめることができる。				福祉ボランティア研修	30%	
多様性理解力	福祉の視点としての「多様性」の意味を知ることができる。				授業での意見交換	10%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
自分の意見を表現し、発表すること。その代表的な場が福祉ボランティア研修である。友人や社会人の意見を聴き、多様性を理解し、共生について理解する。そしてそれを言葉と文章で表現すること。振り返りにおいて、意見交換を行い、到達目標の能力ごとに評価する。							
授業の概要							
社会生活上のさまざまな生活問題や課題を毎回のテーマとして与えるので、これを軸として福祉への関心を高め、言葉と文章で他者と意見交換を行う。その際、教師が適切に介入して学生の成長を促す。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：中島裕編著（2017）『保健医療サービス』ミネルヴァ書房 参考書：なし 指定図書：関家新助（2011）『社会福祉の哲学』中央法規							
授業外における学修及び学生に期待すること							
学生だからこそこできる研修を積み上げてほしい。そのことが将来にソーシャルワーカー職に就いたとき、必要な「価値観」を磨くことになる。専門演習は就業生活設計の方向付けに活用して欲しい。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	学生同士を知る。ゼミの運営方針を知る。	学修についての前期の計画を共有する。
2	社会福祉のレポートについて①	レポート作成のための資料の検索方法について理解できる。	自分の学修目標を立てる
3	社会福祉の事例研究について②	医療ソーシャルワークの事例研究から、身近な問題を想像する。	自分の研究目標を立てる。
4	利用者の暮らしの実態を知る③	自分の個性を磨くためのパフォーマンス力を身に付ける	自分の個性について目標を立てて実行する
5	利用者の暮らしの実態を知る④	自分の個性を磨くためのパフォーマンス力を身に付ける	自分の人生目標を立てて実行する
6	利用者の暮らしの実態を知る⑤	自分の個性を磨くためのパフォーマンス力を身に付ける	自分のボランティア目標を立てて実行する
7	利用者の暮らしの実態を知る⑥	自分の個性を磨くためのパフォーマンス力を身に付ける	自分の単位履修目標を立てて実行する
8	利用者の暮らしの実態を知る⑦	自分の個性を磨くためのパフォーマンス力を身に付ける	自分の生活習慣の目標を立てて実行する
9	利用者の暮らしの実態を知る⑧	自分の個性を磨くためのパフォーマンス力を身に付ける	自分の将来像について目標を立てて実行する
10	利用者の暮らしの実態を知る⑨	自分の個性を磨くためのパフォーマンス力を身に付ける	自分のパフォーマンス力（表現力）を振返る
11	利用者の暮らしの実態を知る⑩	自分の個性を磨くためのパフォーマンス力を身に付ける	自分のパフォーマンス力（企画力）を振返る
12	利用者の暮らしの実態を知る⑪	自分の個性を磨くためのパフォーマンス力を身に付ける	自分のパフォーマンス力（発信力）を振返る
13	利用者の暮らしの実態を知る⑫	自分の個性を磨くためのパフォーマンス力を身に付ける	自分のパフォーマンス力（説得力）を振返る
14	利用者の暮らしの実態を知る⑬	前期を振り返り、ホスピタリティとパフォーマンス力の向上について確認する	資料をまとめる
15	前期のまとめ	振り返りと総括、今後の方向を話し合うことができる	振り返りと発表

授業科目(ナンバリング)	専門演習 A (DA301)			担当教員	中村 龍文			
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修	
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型	
<p>社会福祉の様々な場面で対人業務を行う場合に、医療・医学の知識は必要不可欠なものと考えられる。専門力、情報収集・分析能力、コミュニケーション力、協働・課題解決力および多様性理解力の獲得を目指して、高齢者、障害者、その他様々な疾患やハンディキャップを持った人々に対して、個々人の抱える問題解決のための思考・判断をする事が出来るようになるために、ゼミ生自身が主体となって、卒業研究に向けてテーマを選び、関係した資料を収集し、それらをもとにまとめ、わかりやすくプレゼンテーションができるようになることを目標とする。さらに、論文執筆の基礎について学ぶ。</p>							④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑪ ⑫	
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率		
専門力	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士にとって必要な問題点について討議できる。 ・福祉に関連した医療・医学の専門用語を説明できる。 ・論文の形式、構成について説明することができる。 				<ul style="list-style-type: none"> ・自己の発表 ・課題レポート ・グループ発表 	5%	5%	5%
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館で文献検索ができる。 ・収集した文献を読み内容を分析できる。 ・インターネットを活用した、資料の収集ができる。 				<ul style="list-style-type: none"> ・自己の発表 	15%		
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のテーマについて、論理的に発表することができる。 ・グループディスカッションに参加し、十分に討議できる。 				<ul style="list-style-type: none"> ・自己の発表 ・グループ発表 	20%	20%	
協働・課題解決力	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉における医療・医学の視点から傷病者、障害者に対する支援を考えることができる。 				<ul style="list-style-type: none"> ・課題レポート 	20%		
多様性理解力	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士にとって必要な問題点について討議できる。 				<ul style="list-style-type: none"> ・グループ発表 	10%		
出席					受験要件			
合計					100%			
評価基準及び評価手段・方法の補足説明								
<p>定期試験は行なわない。自分で決定した発表のテーマについて課題レポート(25%)を作成し、どれ位深く掘り下げて調べているか、また自己の発表(40%)でのプレゼンテーションにおいてどれ位わかりやすくまとめているかが評価の基準となる。また、グループディスカッション(35%)の内容についても評価したい。その都度フィードバックを行い確認する。</p>								
授業の概要								
<p>自分の興味のある、福祉、健康、医療、医学などの分野からあるテーマを決めて、文献検索、資料調査などを通してレポートを作成する。授業は、発表を行なった後、全体のディスカッション形式で進めていく。また、卒業研究に向けての、論文執筆の基礎についても学ぶ。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分である。</p>								
教科書・参考書								
<p>教科書：特に指定しない。</p> <p>参考書：特に指定しない。必要なものは適宜紹介する。</p> <p>指定図書：この1冊できちんと書ける！論文・レポートの基本 日本実業出版社</p>								
授業外における学修及び学生に期待すること								
<p>このゼミを通して、自分の頭で考え、行動できるようになって欲しい。最後まで休まず積極的に参加し、色々なことにチャレンジして、何かをつかんで欲しい。レポートの作成などで、図書館その他の施設を効果的に利用し、文献検索法についても習熟して欲しい。また、広く社会にも目を向け、現在何が問題になっているのかをつかんで欲しい。このためには、広く新聞やニュースなどに注意し、様々な現場で多くの皆さんから色々な意見を聞いて欲しい。</p>								

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション①	自己紹介。ゼミの年間計画について。医学、医療、保健、健康などの発表テーマについての説明。	予習：発表テーマについて検討する。
2	オリエンテーション②	発表方法の確認と、テーマ、発表の順番を確認する。	復習：発表テーマについて検討する。
3	テーマの発表①、討論	テーマの発表（担当者）、グループディスカッション。	発表準備、他の人のテーマの予習。
4	テーマの発表②、討論	テーマの発表（担当者）、グループディスカッション。	発表準備、他の人のテーマの予習。
5	テーマの発表③、討論	テーマの発表（担当者）、グループディスカッション。	発表準備、他の人の予習。
6	テーマの発表④、討論	テーマの発表（担当者）、グループディスカッション。	発表準備、他の人のテーマの予習。
7	テーマの発表⑤、討論	テーマの発表（担当者）、グループディスカッション。	発表準備、他の人のテーマの予習。
8	テーマの発表⑥、討論	テーマの発表（担当者）、グループディスカッション。	発表準備、他の人のテーマの予習。
9	テーマの発表⑦、討論	テーマの発表（担当者）、グループディスカッション。	発表準備、他の人のテーマの予習。
10	就職の対策	キャリアセンターでの就職活動の具体的説明会。	復習：就職活動を理解する。
11	図書館での説明会	卒業研究に向けて、文献検索の説明と体験学習。	復習：図書館利用を理解する。
12	論文執筆の基礎①	論文の大まかな形式を理解する。	復習：論文の形式
13	論文執筆の基礎②	論文のオリジナリティーについて学ぶ。	復習：論文のオリジナリティー
14	論文執筆の基礎③	レポートと論文の違いについて学ぶ。	復習：レポートと論文の違い
15	全体のまとめ	ゼミを振り返って、達成点、不十分な点の反省。	復習：達成点、反省点の確認

授業科目(ナンバリング)	専門演習 A (DA301)			担当教員	大島 啓		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>専門演習は A・B は、4 年次開講の「卒業研究」(原則持ち上がり)へと発展していく科目である。本演習では、関心のある社会問題、社会福祉のテーマを選択し、それに関する文献を丁寧に解説することを通じて、現代日本社会が抱える様々な(福祉)問題の全体像を把握・整理し、資料の作成やプレゼンテーション、ディスカッションを通じて社会の課題に対する思考力、判断力、表現力を涵養することを目標とする。この演習はとりわけ、地域社会や国際社会の多様な課題に対応しうる理論的知識を深める点に特色がある。また卒業論文作成に向け、各自のテーマ設定や論文の書き方についても学ぶ。卒論のテーマ設定については、各自の興味に応じた内容を検討し、絞り込んでいく。</p>							⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	現代日本社会が抱える様々な(福祉)問題に関する情報を収集し、それを分析して自己や社会の成長に役立つ知見を指摘できる。				・資料作成	10%	
コミュニケーション力	ホスピタリティの精神に基づいて他の人の意見を傾聴するとともに、文献や資料を正確に読解し、テーマを発見・深めることを通じて、自分の考えを明確にした上で、相互理解を図る議論に参加できる。				・授業での発表・グループ討議など 授業への参加	70%	
協働・課題解決力	資料の作成・プレゼンテーションのスキルアップを通じて、課題を的確に把握し、他の人と協力して課題解決に向けた方策を立案し、実行する営みに寄与できる。				・課題提示に対するプレゼンテーション	20%	
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>授業への出席・参加は当然の評価要件とし、資料の作成(評価比率10%)、プレゼンテーション(評価比率20%)、ディスカッション(評価比率70%)などによって総合的に評価する。資料作成については問題に関する情報を収集し、問題解決の糸口を発見できたかどうかを評価する。プレゼンテーションについては、他人の意見を傾聴し自分の考えを明確にした上で、相互理解を促進できたかどうかを評価する。ディスカッションについては、資料の作成・プレゼンテーションのスキルアップを通じて、課題を的確に把握し、他人と協力して課題解決に向けた立案ができるかどうかを評価する。なお発表内容に関しては、授業内にコメントの形でフィードバックを行う。</p>							
授 業 の 概 要							
<p>授業の進め方は、最初にオリエンテーションを施し、前半は、ゼミ全員で合議の上決定した文献を各自分担の形で発表する。後半は、各自関心があるテーマについて文献を報告し、その過程を通じて、卒論形成の基礎となる学問的作法(問題意識の形成やテーマの絞り方、文献収集や文献の読み込み方、ノートの取り方、文章表現など)を学ぶ。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教 科 書 ・ 参 考 書							
<p>教科書：特に指定しない 参考書：『福祉系学生のための 改訂レポート&卒論の書き方』(2005) 川村匡由・川村岳人 中央法規 指定図書：2017 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験過去問一問一答+α 共通科目編</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>卒業論文につながる演習なので、主体的に取り組むことを期待する。取り組みへの積極的態度の有無によって、卒論の出来に差が出てくることが予想される。既存の知識を習得するのではなく、自分で社会や福祉の問題を考えるための貴重な時間なので、資料作成や発表の準備等に積極的に取り組むことを通じて、有意義に過ごしてもらいたい。授業の欠席は、できる限り事前に連絡すること</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション①	自己紹介、演習の進め方の説明、スケジュール確認と文献情報の提供	年間スケジュールを確認する
2	オリエンテーション②	レジュメ作成の方法をレクチャー、例示する レジュメ作成および文献発表の割り振り	割り振りの確認と発表資料の準備をする
3	文献購読①	ゼミで輪読する文献の報告およびディスカッション	報告資料の作成と、全員が該当部分に目を通しておく
4	文献購読②	ゼミで輪読する文献の報告およびディスカッション	報告資料の作成と、全員が該当部分に目を通しておく
5	文献購読③	ゼミで輪読する文献の報告およびディスカッション	報告資料の作成と、全員が該当部分に目を通しておく
6	文献購読④	ゼミで輪読する文献の報告およびディスカッション	報告資料の作成と、全員が該当部分に目を通しておく
7	文献購読⑤	ゼミで輪読する文献の報告およびディスカッション	報告資料の作成と、全員が該当部分に目を通しておく
8	文献購読⑥	ゼミで輪読する文献の報告およびディスカッション	報告資料の作成と、全員が該当部分に目を通しておく
9	文献内容についての意見交換	前回のゼミで報告が終了した文献の全体内容について、意見交換を行う	各自レポートを作成
10	論文とは何か	『レポート&卒論の書き方』を通じて、論文の書式や論文執筆の作法を学ぶ	該当部分を読んでくる
11	テーマの発掘①	各自が今興味を持っているテーマについて、発表する	報告資料の作成
12	テーマの発掘②	各自が今興味を持っているテーマについて、発表する	報告資料の作成
13	テーマの発掘③	各自が今興味を持っているテーマについて、発表する	報告資料の作成
14	テーマの発掘④	各自が今興味を持っているテーマについて、発表する	報告資料の作成
15	前記のまとめ	前記のまとめと後期に向けての課題設定を行う	後期のスケジュールを確認する

授業科目(ナンバリング)	専門演習 A(DA301)			担当教員	脇野 幸太郎		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
「ソーシャルワークと社会保障」をテーマとして、社会保障の諸制度についての検討、社会保障の課題・問題点の検討、ソーシャルワークの実践と社会保障制度の関係（福祉現場における制度の活用のあり方）の検討などを通じて、ソーシャルワーク実践における社会保障制度理解の重要性について認識できるようになることを目標とする。これらを通じて、後期B以降の卒業論文作成（テーマ設定およびその後の研究）に向けた基礎固めを行う。							⑤⑥⑦⑧
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	<ul style="list-style-type: none"> ・社会保障の諸制度について説明できる。 ・卒業研究の意義について説明できる。 				<ul style="list-style-type: none"> ・発表レジュメ（制度説明的 確性・正確性） ・議論での発言 	10% 10%	
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の見解をレジュメにまとめて報告することができる ・自分の見解を的確かつ論理的な文章で表現することができる。 				<ul style="list-style-type: none"> ・発表レジュメ（自身の見解がまとめられているか） ・議論での発言 	10% 10%	
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> ・あるテーマや課題に関する議論に積極的かつ適切に関与することができる。 				<ul style="list-style-type: none"> ・議論での発言 	30%	
協働・課題解決力	<ul style="list-style-type: none"> ・あるテーマや課題について、他のメンバーと協働しながら、その解決策を模索することができる。 				<ul style="list-style-type: none"> ・議論での発言 	20%	
多様性理解力	<ul style="list-style-type: none"> ・他者の意見を傾聴し、それに基づく議論をすることができる。 				<ul style="list-style-type: none"> ・議論での発言 	10%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
課題の準備・提出状況や内容、およびゼミ内での議論での発言などを上記の基準に基づき評価する。提出された課題や議論の内容などに対しては、授業内でコメントをする形でフィードバックを行う。							
授業の概要							
<p>社会保障（社会保障とは何か、年金、医療保険、介護保険、雇用保険、労災保険、障害者自立支援法、社会手当制度、生活保護制度等々）とその問題点、ソーシャルワーク実践と社会保障とのかかわりなどについて、各自に課題を割り振ったうえで、その課題について皆でディスカッションを行う。その積み重ねの中で、各自の関心や、それに応じた卒業研究のテーマが見つけれられるようにしていく。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：授業時に指示する。 参考書：「厚生労働白書 令和元年版」 指定図書：教科書に同じ。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>「社会保障」をゼミの基盤に置くが、卒業研究のテーマは必ずしも社会保障に関したものでなくてもかまわない。また、高齢者、児童、障がい者、地域など、社会福祉のいずれの分野でもかまわない。ただし、どのようなテーマを選ぶにしても、社会保障の制度理解は必ず必要となるので、そのことを理解し、積極的にゼミ運営にかかわってくれる人の参加を希望する。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	自己紹介・1年間のゼミ運営の内容や到達目標の確認・演習の進め方についての確認。卒業研究と国試対策を両立させるための今後2年間のスケジュールの作成。	卒論作成を含めた向こう2年間の予定を考えておく。
2	準備	・レジュメ作成の仕方、プレゼンテーション(発表)の仕方、ディスカッションの仕方などについての確認。 ・各自のテーマ設定と割り振り。	予習：指定文献を読む 復習：議論、説明を踏まえ、再度指定文献を読む。
3	文献購読①	担当者によるレジュメ作成、発表、全員による討議。 社会保障に関する文献 1 医療保険	予習：指定文献を読む 復習：議論、説明を踏まえ、再度指定文献を読む。
4	文献購読②	担当者によるレジュメ作成、発表、全員による討議。 社会保障に関する文献 1 医療保険(つづき)	予習：指定文献を読む。 年金についての情報収集 復習：議論を踏まえ、再度指定文献を読む。
5	文献購読③	担当者によるレジュメ作成、発表、全員による討議。 社会保障に関する文献 2 介護保障	予習：指定文献を読む 復習：議論、説明を踏まえ、再度指定文献を読む。
6	文献購読④	担当者によるレジュメ作成、発表、全員による討議。 社会保障に関する文献 3 年金	予習：指定文献を読む 復習：議論、説明を踏まえ、再度指定文献を読む。
7	文献購読⑤	担当者によるレジュメ作成、発表、全員による討議。 社会保障に関する文献 3 年金(つづき)	予習：指定文献を読む 復習：議論、説明を踏まえ、再度指定文献を読む。
8	文献購読⑥	担当者によるレジュメ作成、発表、全員による討議。 社会保障に関する文献 4 児童福祉	予習：指定文献を読む 復習：議論、説明を踏まえ、再度指定文献を読む。
9	文献購読⑦	担当者によるレジュメ作成、発表、全員による討議。 社会保障に関する文献 5 障害者福祉	予習：指定文献を読む 復習：議論、説明を踏まえ、再度指定文献を読む。
10	文献購読⑧	担当者によるレジュメ作成、発表、全員による討議。 社会保障に関する文献 6 社会福祉	予習：指定文献を読む 復習：議論、説明を踏まえ、再度指定文献を読む。
11	文献購読⑨	担当者によるレジュメ作成、発表、全員による討議。 社会保障に関する文献 7 生活保護	予習：指定文献を読む 復習：議論、説明を踏まえ、再度指定文献を読む。
12	レポート作成準備	卒業研究のテーマ設定を見据えながら、レポートのテーマ、構成について、全員が発表し、討議を行う。	次回に備え、自分が作成しようとするレポートの内容・構成を考えておく。
13	図書館オリエンテーション	卒業研究における図書館活用の方法について学ぶ。	レポート作成。
14	レポート発表	レポートの内容発表とディスカッションを行う。	ゼミでの指摘を踏まえ、レポートを再読し、修正する。
15	省察・まとめ	前期の省察とまとめ。卒論作成への認識の再確認。	後期に向け、卒業研究のテーマをよく考えておく。

授業科目(ナンバリング)	専門演習 A (DA301)			担当教員	韓 榮芝		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必須
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本演習では、東アジア、主に日本や中国の地域における社会現象、地域問題について共通認識・理解を高めるために、どのような観点から、どのような方法（調査）で、実証研究を進めていくのか、先行事例を通して、コミュニティ・ソーシャルワークへの理解を深めることを目標とする。少人数のゼミ形式を中心に取り組む（佐世保地域の小規模多機能ホームや社協などのフィールドワークを通じて）ことにより、4年制大学生としての教養と応用力（社会人基礎力）を身につけることができる。							①②③④⑤⑥ ⑦⑧⑨
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	地域全般の福祉課題を積極的に取り組むことができる。				発表レジュメ 授業態度・活動への参加	5% 5%	
情報収集、分析力	アジア諸国の社会情勢を踏まえた上で日本の地域課題を的確に把握することができる。				課題レポート	10%	
コミュニケーション力	福祉専門的な技術・技能を活用した取り組みに参加できる。				授業態度・活動への参加 課題レポート プレゼン	5% 10% 20%	
協働・課題解決力	福祉専門職種のそれぞれの役割を理解できる。				課題レポート 発表・質疑応答	10% 20%	
多様性理解力	福祉社会の基本理念や歴史の流れを理解し、説明することができる。				出席カードコメント欄の内容 課題レポート	5% 10%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
まず授業への参加は評価要件とする。レジュメの作成、発表・討論（40%）、レポート（40%）などによって総合的に評価する。授業毎回において、レスポンスカードを配布し、記入して提出すること（出席状況も含む20%）。授業への参加意欲を評価する材料とする。レポートは計4回。与えられたテーマについて文献・資料を探し出し、リサーチの結果をまとめて提出すること。最終回に、半年間の学習を通して、関心あるテーマを1つ選び発表し討議すること（1人で発表15分、討議15分程度）。							
授業の概要							
日本の社会福祉分野においては、近年東南アジアに関する研究は益々必要とされる。そのために、ソーシャルワークの視点でコミュニティを拠点に日・中両国の社会保障・社会福祉（社会的セーフティネット）を推進していく考えを念頭に、福祉先進諸国の福祉について学ぶ。その上で、各自で課題を発見し、関連の文献・資料を探し出し、研究成果をまとめる。授業の進め方は、各自の課題について研究成果をまとめて報告し、討論を行っていく。その中で各自の関心課題を煮詰めて絞っていく。その上で卒業論文につながるような関心・課題を見つけていくこと。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：「レポート・論文の書き方入門」（単行本） 河野 哲也著 慶応義塾大学出版会 参考書：「レポート・試験はこう書く 新・社会福祉要説」 中島恒雄著 ミネルヴァ書房必要に応じ指示する 指定図書：①「コミュニティ・ソーシャルワーク」 平成23年度・平成24年・平成25年 日本地域福祉研究所発行 ②「社会福祉の国際比較—研究の視点・方法と検証」 阿部 志郎、井岡 勉（2000/4）有斐閣出版社							
授業外における学修及び学生に期待すること							
国際比較研究を進めるために、社会調査の方法（フィールドワーク）についてしっかり勉強しておく。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	ガイダンス	授業の進め方及び年間スケジュールの把握。	シラバスを読む
2	文献収集・資料の分析	研究文献の収集方法を理解する。	授業内容の振り返りと配布資料の精読
3	レポート作成要領	研究成果レポートの作成要領を理解する。	レポート作成要領の纏めと与えられた文献をレジユメする
4	レジユメ作成と発表方法	レジユメ及びパワーポイントの作成について学ぶ。	授業内容の復習と先行文献の精読を行う
5	各国の福祉制度研究 (1) -1	福祉先進国日本の地域福祉についての文献を講読する。	授業内容の振り返りと次回討議課題の整理を行う。
6	各国の福祉制度研究 (1) -2	福祉先進国日本の地域福祉についての文献を討議する。	討議内容のまとめとレポートの作成、発表の準備
7	レポートの提出	研究成果レポートを提出、発表する。	レポート執筆の振り返りと次回授業内容の精読
8	各国の福祉制度研究 (2) -1	福祉国家イギリスの地域福祉についての文献を講読する。	授業内容の振り返りと次回討議課題の整理を行う。
9	各国の福祉制度研究 (2) -2	福祉国家イギリスの地域福祉についての文献を討議する。	討議内容のまとめとレポートの作成、発表の準備
10	レポート提出	研究成果レポートを提出、発表する。	レポート執筆の振り返りと次回授業内容の精読
11	各国の福祉制度研究 (3) -1	中国の社会福祉制度政策についての文献を講読する。	授業内容の振り返りと次回討議課題の整理を行う。
12	各国の福祉制度研究 (3) -2	中国の社会福祉制度政策についての文献を討議する。	討議内容のまとめとレポートの作成、発表の準備
13	レポート提出	研究成果レポートを提出、発表する。	レポート執筆の振り返りと次回の総括発表のレジユメ作成
14	研究発表	作成したレポートの中から、最も関心のあるテーマを1つ選んで口頭発表を行う。	発表内容の振り返りと課題に即した先行文献を検索する
15	総括	半年間の先行研究のまとめ及び夏休みの課題を見つける。	夏休みの取り組みに向けて

授業科目(ナンバリング)	専門演習 A(DA301)			担当教員	石橋 亜矢		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本演習では専門演習、卒業研究を通して思慮する力を養うことを目的とする。卒業研究に向け、基本的な研究過程および方法論に関する知識の修得の為に、テーマに応じた課題の追及、クリティーク能力、ディスカッション、プレゼンテーションに関する基礎的なスキルの修得を目標とする。</p> <p>この演習を通して、専門的知識・技術を修得し、それらを様々な課題に適用して解決を図ることができることをねらいとする。</p>							②④⑤⑥⑦ ⑧⑩⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	自分の見解をレジюмеにまとめて報告することができる。 自分の見解を的確かつ論理的な文書で表現することができる。				プレゼンテーション レジюме作成	10% 10%	
コミュニケーション力	社会福祉士としての役割や機能・連携（調整力）に関する知識を体系的に学習することができる。 課題に関して自分の考えを的確に文章化し、表現力を備えた発表ができる。				授業態度・参加	55%	
協働・課題解決力	社会福祉士において意義ある研究課題を探り、自主的に学習することができる。 メンバーと協働し共に考え、アサーティブなディスカッションを行うことができる。				ディスカッション参加 課題レポート	15% 10%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>「授業態度・参加」(55%)、「ディスカッション参加」(15%)とし、主体的な参加とアサーティブな姿勢を評価する。「課題レポート」(10%)を課し、本演習の課題、予習・復習のまとめをポートフォリオを通して、フィードバックを行い学生と共有する。発表は、担当した「レジюме作成」(10%)及び、「プレゼンテーション」(10%)の内容で評価をする。</p>							
授業の概要							
<p>本演習の授業形式は、自主的な学習成果の発表および討議による授業形態をとるので、学生の主体的な準備の基に、進めていきたい。コースの前半では、主に研究手法を学びながら、論文について理解する。後半は、各自が卒業論文作成に向けて資料を集め、題目についてプレゼンテーション、ディスカッションを行い、自らの問いを説明できるようにする。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>参考書：『パソコンで進めるやさしい看護研究』富田真佐子著 保育社 『よくわかる看護研究論文のクリティーク』山川みやえ著 日本看護協会出版会 ※演習の内容やテーマに応じて必要な資料・文献は、適宜紹介する。 指定図書：『トラベルビー人間対人間の看護』長谷川浩著 医学書院</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>本演習のゼミでは、専門的な知識や技術は勿論だが、人と人、心と心を通わせる専門職としての、感性が最も大切である。地道な努力により成長できる事を信じ、一人一人が楽しめる様な工夫を考え 共によりよいゼミを創造していきける力を養って欲しい。更にゼミ生は仲間でもありライバルでもある事を認識し、芯の強さを持ちゼミの目標に向かって計画的に前進されることを強く望む。</p> <p>レジюмеの作成や発表の準備など、課題をしっかりとやってくる事が受講の要件とする。</p> <p>注意点：やむを得ない事情で出席できない場合は、事前連絡・相談を行い、代替の履修方法について指導を受けること。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション①	自己紹介を行いゼミ長選出 シラバスについて理解する 演習のねらい、目標、進め方、評価などの確認を行う	予習：半期のスケジュール を確認する 復習：役割の把握 卒論テーマを考える
2	オリエンテーション②	論文とは何か、論文執筆に取り組む意義を学ぶ 卒論テーマをおおまかに考え方向性を発表する	予習：論文執筆に取り組む 意義を文章にまとめる 復習：卒論テーマを考える
3	研究テーマを決める	レジユメの作成方法を学ぶ。 配布された文献を読み、ディスカッションを行う	予習：文献を読み、レジユ メを作成し、ポートフォリオにて 提出する 復習：ディスカッション内 容をまとめる
4	図書館オリエンテーション	図書館やデータベースの活用方法を学ぶ（図書館）	予習：文献検索について調 べる 復習：テーマを基に、先行 研究を検索する
5	文献検索①	研究テーマに沿った文献検索を図書館にて行う	予習：先行研究のワードを 考えておく 復習：テーマを基に、先行 研究を検索する
6	文献検索②	研究テーマに沿った文献検索を図書館にて行う	予習：先行研究のワードを 考え検索する 復習：テーマを基に、先行 研究を検索する
7	文献講読①	文献リストを発表し、その妥当性を議論し検証する	予習：テーマに関する概略 的な知識を得る 復習：テーマを基に、先行 研究を検索し整理する
8	文献購読②	レジユメによる文献の内容と自分の考えを発表し、ディ スカッションを行う	予習：文献を読み、レジユ メ作成し、自分の考えをま とめる 復習：ディスカッション内 容をまとめる
9	文献購読③	レジユメによる文献の内容と自分の考えをプレゼンテ ーション資料として作成し、ディスカッションを行う	予習：論文と、作文やレポ ートとの違いをまとめる 復習：ディスカッション内 容をまとめる
10	文献購読④	文献購読を振り返り、関心のある領域を整理する 社会福祉士国家試験、過去問題 30 回目を実施する	予習：文献検索を整理する 復習：社会福祉国試 30 回 を学修
11	レポート作成準備①	卒業研究のテーマ設定を見据えながら、レポートのテー マ、構成について考える	予習：題目をポートフォリオにて 提出 復習：国試 30 回を学修
12	レポート作成準備②	卒業研究のテーマ設定を見据えながら、レポートのテー マ、構成について発表し、討議を行う。	予習：レポートの内容・構 成を考え発表準備をする 復習：発表内容をまとめる 国試 30 回を学修
13	福祉施設の事前学習	実習施設の背景や問題について、整理を行い発表する	予習：研究テーマ、背景を 明確にする 復習：ディスカッション内 容をまとめる
14	就職対策	キャリアセンターより講話、履歴書指導	予習：履歴書作成 復習：履歴書作成を完成
15	省察・まとめ	レポートの内容発表とディスカッションを行う 前期を振り返り、後期ゼミに向けてディスカッションを 行う	復習：後期に向け、卒業研 究のテーマを再確認する 国試 28 回を夏休みの課題 とする

授業科目(ナンバリング)	専門演習 A(DA301)			担当教員	浦 秀美		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本演習は専門演習 B・卒業研究に続く科目である。演習を通して自分自身で考える力・考えをまとめる力を獲得することを目的としたい。</p> <p>福祉分野（介護・社会福祉・保育・ケアマネジメントを中心に）における福祉の問題や課題を中心に、文献を読み込み、まとめる。そして、卒業論文を執筆する際のテーマを絞り込んでいく。論文の書き方についても学ぶ。さらに、社会福祉士・介護福祉士国家試験学修への一歩を踏み出したい。</p> <p>本演習を受講することで、本学のディプロマポリシーでも示されている、他の人の意見を傾聴するとともに自分の考えを明確にした上で、静かに意見を交換し、相互理解を図ることができるようになることもねらいとしたい。</p>							①④⑤⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力							
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関心ある福祉課題について、図書館やデータベースを活用できる ・ インターネットを活用して情報収集ができる ・ 論文とは何かを説明できる ・ 論文を執筆する意義を説明できる 					レジュメ作成 授業での発表	10% 10%
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関心ある福祉課題の経緯・動向を調べ、述べることができる ・ 他の学生が関心ある福祉課題も関心を持って聴き、質問や自分の意見を述べるができる 					議論参加 レポート	30% 20%
協働・課題解決力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他の学生が関心ある福祉課題に関心を持ち、議論に参加できる ・ 社会福祉士や介護福祉士の国家試験概要を他の学生と協働し理解し合うことができる 					議論参加 レポート	15% 15%
多様性理解力							
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業での発表：レジュメに沿い、聞き手にも分かりやすい表現や内容であるか適宜確認する。各自へのフィードバックも口頭や提出レジュメにコメントをつけるなどして行う（10%） ・ レジュメ：授業発表時に使用するレジュメについて指示された文字数、体裁を守って作成できたか（10%） ・ 議論参加：授業での議論に参加しているか（発表を聴き、発表者の主張を理解できているか、主張への意見を表出できるか）、適宜確認する。各自へのフィードバックも行う（45%） ・ レポート：授業内容や教科書の内容を理解し、自分の言葉で説明できているかによって評価する（35%） 							
授業の概要							
<ul style="list-style-type: none"> ・ 前半は、書籍や論文を読み、研究とは何か、論文とは何かを学ぶ。発表を通し自分自身が興味ある分野を明確化する。卒業論文作成において必要となる論文検索などに向けたライブラリーオリエンテーションも実施する。 ・ 後半は、自分自身の興味ある分野での最新の研究や、取り組みを調べ、発表しディスカッションを行う。また、卒業論文作成に向けた資料集めや国家試験学修に向けた基本的な確認を行う。 <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：石黒圭（2012）『この1冊できちんと書ける！論文・レポートの基本』日本実業出版社</p> <p>参考書：なし</p> <p>指定図書：ミルトン・メイヤロフ（1987）『ケアの本質』ゆみる出版</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>この演習では、卒業論文が執筆するための基本的なルールや流れについて解説・助言を行っていく。また、受講学生自身の興味ある分野を明確にするために自発的に取り組んでもらうことになる。そのため、受講学生自身でレジュメやレポート、それに基づく発表などが本演習の題材となる。発表するものがないと他者に迷惑をかけることになるため、課題の提出期限を厳守し、真摯に取り組んでくれることを期待する。また、他者との関わりを重視するため、他者と協働して物事に取り組み課題に取り組むことも期待する。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション 1	自己紹介、演習のねらい、目標、進め方、評価などの確認を行う	(復習)2020年度年間スケジュールを把握する
2	オリエンテーション 2	年間スケジュール(前期)を発表し、把握し合う 論文とは何か、論文執筆に取り組む意義を学ぶ	(予習)自分自身の年間スケジュールを計画する (復習)自分自身の年間スケジュールの修正を行う
3	文献購読 1	レジユメの作成方法を学ぶ。『ケアの本質』を読み、レジユメを作成する(発表分担や役割を決める)	(復習)次回の文献を読み、レジユメ作成(発表者)、自分の考えをまとめる
4	文献購読 2	作成したレジユメを発表し、発表者に対する意見を述べるなどのディスカッションを行う	(予習)分担された発表項目に沿ったレジユメ作成し、提出する (復習)発表されたレジユメ内容、自分の考えを整理する
5	文献購読 3	作成したレジユメを発表し、発表者に対する意見を述べるなどのディスカッションを行う	
6	文献購読 4	作成したレジユメを発表し、発表者に対する意見を述べるなどのディスカッションを行う 文献購読を振り返り、関心のある領域を整理する	
7	ライブラリーオリエンテーション(上級)	図書館にてライブラリーオリエンテーションを受け、論文検索方法を学び実践する	(復習)図書館で学んだ論文検索方法やルールを整理する
8	これまでの知識の確認	これまでに学んできた福祉の知識と関連付ける。論文作成、実習を前に、これまでに学んだ知識を概観する	(復習)関心のある領域のキーワードを5~7つに整理する
9	国家試験概要の理解	社会福祉士や介護福祉士の国家試験の概要について理解し、整理する	(予習)社会福祉振興・試験センターのHPを閲覧し、SW・CWの概要を整理する
10	国家試験に向けた取り組み	現時点で履修を終えている国家試験科目の問題を解き、今後の試験対策のあり方をディスカッションする	(予習)受験する資格に係る試験勉強を行う (復習)試験対策方法を整理する
11	情報収集への準備	ライブラリーオリエンテーションで学んだことを活かし、文献や論文の収集に着手する	(予習)興味のある福祉分野を明らかにする (復習)興味のある福祉分野について情報収集を始める
12	情報収集の実際①	各自が関心ある福祉の問題について、問題の背景と研究テーマを発表し、ディスカッションを行う	(復習)研究テーマを整理する
13	情報収集の実際②	各自が関心ある福祉の問題について、問題の背景と研究テーマを発表し、ディスカッションを行う	(復習)研究テーマを明確にする
14	情報収集の実際③	各自が関心ある問題から論文執筆に向けた絞り込みを行う	(予習)興味ある分野の研究の現在を調べる (復習)さらに読むべき文献を整理する
15	まとめ	前期の到達地点と、後期までにすべきことを確認する	(予習)今後のスケジュールリングの準備を行う (復習)夏季休暇の計画を完成する

授業科目(ナンバリング)	専門演習 A (DA301)			担当教員	野田 健		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
この授業は、社会福祉学的視点から「ホスピタリティとは何か」という問いを持つことから始まり、地域社会に貢献しうる自己を確立するため、「福祉哲学」「相談援助」「社会貢献」を学修の柱に据え、福祉マインドの醸成を図ることをねらいとする。授業の方法については、本学のディプロマ・ポリシーにある「人間尊重」を基本理念に、自己研鑽を継続的に行う能力（ホスピタリティを構成する能力）を高めるため、各人の興味・関心のある社会問題を中心に、文献検索・読書・資料作成・発表・ディスカッションを行っていく。なお、「専門演習」はA・Bと通年科目であり、かつ「卒業研究」につながっていくものである。							⑥⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力							
情報収集、分析力	与えられた課題に対し、適切な方法にて情報収集を行うとともに、情報を十分に分析し、自分の考えを論理的にまとめることができる。					課題の達成度 発表・ディスカッションでの発言内容	10% 10%
コミュニケーション力	自分の意見、他者の意見を適切に交換させていながら、互いに成長し合う関係を築くことができる。					課題の達成度 発表・ディスカッションへの参加姿勢	25% 25%
協働・課題解決力	与えられた課題に対し、メンバーと協働して適切な解決策を導き出すことができる。					課題の達成度 発表・ディスカッションでの貢献度	15% 15%
多様性理解力							
出席						受験要件	
合計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>課題：レポート課題（Word：おおよそA4で1～2枚程度：5回）にて評価を行う。</p> <p>研究中間報告：発表・ディスカッション（5回）での発言内容・参加姿勢・貢献度を評価する。</p> <p>フィードバック：課題、研究中間報告に関するフィードバックは、授業中もしくはポートフォリオを活用し評価・解説する方法を用いる。</p>							
授業の概要							
<p>この授業のねらいは、「相談援助論」と「福祉哲学」をベースに、福祉マインドを醸成していくことにある。そのため、学修者個々人が興味・関心を抱く社会問題について、情報を集め、分析し、発表やディスカッションを行いながら、互いに知見を広げて成長していけるような授業を展開していく。なお、授業以外にボランティア活動にも参加することを求める。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：山田剛史、林創（2011）『大学生のためのリサーチリテラシー入門—研究のための8つの力』ミネルヴァ書房</p> <p>参考書：高根正昭（2003）『創造の方法学』講談社（論理的思考の習得のために活用）</p> <p>指定図書：厚生労働省編『厚生労働白書』日経印刷株式会社等の政府刊行物 ※ 発行年問わず</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>「専門演習」はA・Bと通年科目であり、かつ「卒業研究」につながっていくものであることから、先のことを見据え、遠慮や謙遜をせず、お互いに自由に活発な時間が過ごせるよう、「意欲」と「協調」をもって参加されることを期待する。また、ボランティア活動への積極的な参加を期待する。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	講義計画の概要の紹介、学習方法（レポートの作成の仕方、報告やディスカッションの仕方）に関する説明を行う。その他、ルーブリック評価を実施する。	復習：レポートの書き方の復習（ノート整理）。
2	『大学生のためのリサーチリテラシー入門』読解①	ホスピタリティと教科書の第0章「本書の3つのキーワードと学士力」の内容について説明を行い、第1章から第8章までの熟読、レポート作成に入る。	予習：ホスピタリティに関するレポート作成。 復習：教科書の熟読
3	『大学生のためのリサーチリテラシー入門』読解②	前回授業に引き続き、教科書の熟読、レポート作成を行う。その他、個別面談を行う。《ポートフォリオによる課題提出①》	予習：教科書の熟読、レポート作成、発表準備。 復習：予習と同じ。
4	『大学生のためのリサーチリテラシー入門』読解③	第1章、第2章、第3章、第4章のレポート発表、ディスカッションを行う。《発表・ディスカッション①》	復習：本日の学修に関するレポート作成。
5	『大学生のためのリサーチリテラシー入門』読解④	第5章、第6章、第7章、第8章のレポート発表、ディスカッションを行う。《発表・ディスカッション②》	復習：本日の学修に関するレポート作成。
6	「100冊読書」①-1 2冊を熟読・レポート作成	「自分の関心事」をテーマにして、そのことに関する知見を拡げるため、各々が1冊の本（厚生労働白書等）を選定し、熟読する。	予習：「自分の関心事」に関するレポート作成。 復習：選択図書熟読。
7	「100冊読書」①-2 2冊を熟読・レポート作成	前回の授業に引き続き、本をさらに1冊選定して熟読し、その本から学び得たことをレポートにまとめる。《ポートフォリオによる課題提出②》	予習：選択図書熟読、レポート作成。発表準備。 復習：予習と同じ。
8	「100冊読書」①-3 2冊の本を紹介	各々がまとめてきたレポートの発表（5分程度）を行い、その後ディスカッションを行う。《発表・ディスカッション③》	予習：発表準備。 復習：発表の振り返りレポートの作成。
9	「100冊読書」②-1 2冊を熟読・レポート作成	「自分の関心事」をテーマにして、そのことに関する知見を拡げるため、各々が1冊の本（厚生労働白書等）を選定し、熟読する。	予習：「自分の関心事」に関するレポート作成。 復習：選択図書熟読。
10	「100冊読書」②-2 2冊を熟読・レポート作成	前回の授業に引き続き、本をさらに1冊選定して熟読し、その本から学び得たことをレポートにまとめる。《ポートフォリオによる課題提出③》	予習：選択図書熟読、レポート作成。発表準備。 復習：予習と同じ。
11	「100冊読書」②-3 2冊の本を紹介	各々がまとめてきたレポートの発表（5分程度）を行い、その後ディスカッションを行う。《発表・ディスカッション④》	予習：発表準備。 復習：発表の振り返りレポートの作成。
12	「100冊読書」③-1 2冊を熟読・レポート作成	「自分の関心事」をテーマにして、そのことに関する知見を拡げるため、各々が1冊の本（厚生労働白書等）を選定し、熟読する。	予習：「自分の関心事」に関するレポート作成。 復習：選択図書熟読。
13	「100冊読書」③-2 2冊を熟読・レポート作成	前回の授業に引き続き、本をさらに1冊選定して熟読し、その本から学び得たことをレポートにまとめる。《ポートフォリオによる課題提出④》	予習：選択図書熟読、レポート作成。発表準備。 復習：予習と同じ。
14	「100冊読書」③-3 2冊の本を紹介	各々がまとめてきたレポートの発表（5分程度）を行い、その後ディスカッションを行う。《発表・ディスカッション⑤》	予習：発表準備。 復習：発表の振り返りレポートの作成。
15	卒業研究中間報告会への参加全体の振り返り	卒業研究中間報告会に参加した後、これまでまとめてきたレポートを振り返り、「自分の関心事」とその知見を整理する。《ポートフォリオによる課題提出⑤》	復習：これまでのレポートの整理。

授業科目(ナンバリング)	専門演習 A (DA301)			担当教員	ヴィラーグ ヴィクトル		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本演習では、次年度の卒業研究に向けて、社会福祉研究及び論文執筆に必要な力量の向上を目指す。そのために必要な思考力・判断力・表現力を、参加型学習を通じて身につけていく。</p> <p>前期は、研究テーマの詳細な設定方法、研究の全体像及び既に蓄積されている知見の活用に対する理解を深める。その中で、研究テーマの選定、各種計画の立て方などの基礎知識を得る。なお、本学期中に研究計画及び先行研究の読書計画まで具体的に進める。</p>							①④⑤⑥⑪⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力							
情報収集、分析力	調査研究の方法論について調べ、伝えることができる。					文献発表	30%
コミュニケーション力	問題関心に沿って、取り組みたい研究について書面で表現できる。					研究計画	40%
協働・課題解決力	定期的な状況報告会とディスカッションに参加できる。					グループワーク	30%
多様性理解力							
出席						受験要件	
合計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>研究計画（40%）では、前期の成果物としての完成度を問う。文献発表（30%）では、教科書輪読における分担箇所について適切にまとめられるかを評価する（一回以上）。グループワーク（30%）では、進捗状況の発表の完成度とディスカッション等への参加態度と貢献度を確認する。必要に応じて、ポートフォリオ上と授業内でフィードバックを行う。</p>							
授業の概要							
<p>オリエンテーションと問題関心の共有を経て、社会福祉研究の概要、研究テーマの選び方、研究計画の立て方、文献の集め方、文献レビューの進め方を取り上げる。それぞれに関する輪読発表を踏まえ、学んだことに当てはめて実際に各自の研究プロセスを進め、進捗状況を共有するために報告会を頻繁に実施する。</p> <p>なお、各回のスケジュール等は6人を想定しており、最終的な履修人数等に左右される。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分である。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：久田則夫編（2003）『社会福祉の研究入門』 中央法規。</p> <p>参考書：平山尚・ほか編（2003）『ソーシャルワーカーのための社会福祉調査法』 ミネルヴァ。</p> <p>指定図書：岩田正美・ほか編（2006）『社会福祉研究法』 有斐閣。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
担当教員の専門分野に関連する研究テーマに関心のある学生を歓迎するが、本演習は各自の課題認識に沿って進める。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	自己紹介、シラバスの説明、学期中の期待の共有	予習：シラバスを熟読し、演習への期待をまとめる。 復習：学期中の目標を述べる。
2	問題関心の共有	各自の研究テーマ希望とその動機付けについて発表及びディスカッション	予習：研究テーマについてまとめる。 復習：研究テーマの修正を行う。
3	社会福祉研究の概要	社会福祉学における研究の概要について発表及びディスカッション	予習：教科書 1-16 頁 復習：学んだ内容を自分の研究テーマに照らし合わせる。
4	研究テーマの選び方	研究テーマの選定方法について発表及びディスカッション	予習：教科書 33-48 頁 復習：学んだ内容を踏まえて研究テーマを再確認する。
5	研究テーマの共有	各自の研究テーマについて発表及びディスカッション	予習：研究テーマを確定する。 復習：研究テーマの最終修正を行う。
6	研究計画の立て方①	研究計画の概要と研究の種類について発表及びディスカッション	予習：教科書 49-55 頁 復習：学んだ内容を自分の研究テーマに照らし合わせる。
7	研究計画の立て方②	研究方法とデータ収集法の種類について発表及びディスカッション	予習：教科書 56-65 頁 復習：取り組みたい手法を選ぶ。
8	企業説明会	企業説明会への参加	予習：キャリアについてまとめる。 復習：企業説明会の振り返りを行う。
9	研究計画の作成	研究計画の合同指導	予習：研究計画の執筆を進める。 復習：研究計画の修正を行う。
10	研究計画の共有①	各自の研究計画について発表及びディスカッション	予習：研究計画の執筆を完成させる。 復習：研究計画の再修正を行う。
11	研究計画の共有②	各自の研究計画について発表及びディスカッション	予習：研究計画の執筆を完成させる。 復習：研究計画の再修正を行う。
12	文献の集め方	文献収集の方法について実技講習（図書館訪問）	予習：研究のキーワードを考える。 復習：研究のキーワードを検索する。
13	読書計画の共有	各自の読書計画について発表及びディスカッション	予習：後期までの読書計画を作る。 復習：読書計画の修正を行う。
14	文献レビューの進め方	文献レビューの方法について発表及びディスカッション	予習：教科書 67-74 頁 復習：文献レビュー・シートを作成する。
15	まとめ	受講生自身による前期の振り返りとまとめ	予習：前期を振り返る。 復習：前期を復習する。

授業科目(ナンバリング)	専門演習 A (DA301)			担当教員	柳 智盛		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本演習では、様々な障害をもつ方々のことについての理解と援助のための実践力を身につけることを目標とする。特に、近年注目を浴びている発達障害についての理解と援助の方法への知識や実践力を培う。具体的には、自閉症や学習障害、ADHD 等の発達障害についての特徴を学び、その援助の方法論としてのグループ・アプローチを実践的に身につけることを目標とする。また、こうした諸問題に取り組みながら、卒業研究のテーマを絞り込む。こうした過程を通して、ディプロマポリシーにある社会の問題に対する思考力・判断力・表現力を活用し、主体的に問題解決を行う力を身に付けることを目標とする。</p>							⑤、⑦、⑩、⑪、⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	卒論研究テーマに関連する理論を理解し、説明できる。				・課題レポート	5%	
情報収集、分析力	障害児・者に対する支援に関する文献と支援活動での経験を通して、障害児・者への支援に対して指摘できる。				・授業への参加度 ・課題レポート	10% 10%	
コミュニケーション力	障害者に対する理解と支援について、実体験やディスカッションを通して、卒論研究テーマに沿った自分の考えを表現することができる。				・発言内容、独自性	20%	
					・ディスカッションへの参加、発言	20%	
協働・課題解決力	障害児・者に対する支援に関する文献と支援活動での経験を通して得られた知見から、障害児・者への支援に寄与することができる。				・授業への参加度 ・課題レポート	15% 15%	
多様性理解力	障害児・者の立場に立って考えることができる。				・課題レポート	5%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>プレゼンテーション及びディスカッションへの参加姿勢や発言方法・発言内容の適正さ・独自性(40%)、卒論研究に向けて課された課題レポート提出(35%)、授業及び支援活動への参加度(25%)について総合評価する。なお、課題レポートについては、次回の授業で内容をフィードバックする。</p>							
授業の概要							
<p>指定文献を各回の担当者がまとめ、発表及び質疑応答のディスカッション形式で進めて各発表について参加者全体での理解を深める。適宜、必要に応じて実際にワークの体験なども取り入れていく。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：杉山登志郎著(2007)『発達障害の子どもたち』講談社現代新書</p> <p>参考書：必要に応じて指示する。</p> <p>指定図書：浦上昌則・脇田貴文著(2008)『心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方』東京図書</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>本演習において、様々な障害を方々のことについての理解を深めるため文献や各メディアに関心を向けることや、ボランティア活動への参加を積極的に行い実体験としての関わり経験を積んでほしい。特に、毎月実施している自閉症児・者の余暇活動支援グループ「どれみふあくらぶ」に参加することと、特別支援学校での肢体不自由児者への動作法を用いた訓練会に参加することで、理論的理解と実践的援助技術をうまく融合させながら学んでほしい。「どれみふあくらぶ」や「動作法の訓練会」などへのボランティア活動への参加を上記の評価での支援活動として位置付ける。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	授業の内容、進め方、発表の形式などについての説明	当日の振り返りを行い、発表準備を進めること。
2	発達障害は治るのか	世間に広がる誤解、発達障害と診断された事例について学ぶ。	予：発達障害を理解し、発表の資料を作成すること。 復：発達障害の診断を考える。
3	「生まれつき」か「環境」か①	受精のリスク、生理学的早産、環境の影響を受ける遺伝子、遺伝と環境の関係について学ぶ。	予：遺伝と環境について発表の資料を作成すること。 復：発達障害の捉え方考える。
4	「生まれつき」か「環境」か②	発達障害の概観、個人差と発達障害の違い、発達障害の新たな分類について学ぶ。	予：新しい診断について調べる。 復：担当箇所の発表を準備する。
5	精神遅滞と境界知能	精神遅滞の育ち、境界知能、事例、知能とはについて学ぶ。	予：障害と知能発達について考える。 復：内容を振り返る。
6	自閉症という文化①	自閉症の3つの症状、自閉症者の自伝、自閉症という謎とその答えについて学ぶ。	予：自閉症について考える。 復：内容を振り返る。
7	自閉症という文化②	自閉症の体験世界、自閉症的認知と自閉症の「認知の穴」、自閉症への治療教育について学ぶ。	予：自閉症の治療教育を理解する。 復：内容を振り返る。
8	アスペルガー問題①	アスペルガー症候群の再発見、ADHD との誤診、高機能広汎性発達障害の育ちについて学ぶ。	予：アスペルガー症候群について考える。 復：諸知識を理解する。
9	アスペルガー問題②	さまざまな併発症、犯罪歴、18歳以上の発達障害、成人後の状況を決めるものについて学ぶ。	予：該当箇所を読み、発表の資料を作成すること。 復：事例を探し理解する。
10	ADHD と学習障害	ADHD とは、ADHD の育ちと対応のコツ、学習障害とは、学習障害への対応について学ぶ。	予：対応や接し方について考える。 復：事例を探し理解する。
11	障害児者への理解①	障害児者への理解を深めるため、支援活動を企画・開催のためのディスカッションを行う。	予：障害児者の支援活動について考える。 復：活動の意義について理解する。
12	障害児者への理解②	障害児者への理解を深めるため、支援活動を企画・開催のためのディスカッションを行う。	予：障害児者の支援活動について考える。 復：活動の意義について理解する。
13	文献発表・ディスカッション①	発表者による、関心のあるテーマについての発表と質疑応答を行う。	予：関心のある文献を予約してくる。 復：内容を振り返る。
14	文献発表・ディスカッション②	発表者による、関心のあるテーマについての発表と質疑応答を行う。	予：関心のある文献を予約してくる。 復：内容を振り返る。
15	前期のまとめ	卒論研究テーマに関連づけて前期の振り返りを行い、未習熟な部分を補完する。	予：前期を振り返り、発表の資料を作成すること。 復：講義全体を振り返る。

授業科目(ナンバリング)	専門演習 A			担当教員	久田 貴幸		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本演習は、専門演習 B を経て卒業研究へ続く科目である。演習を通して文献の検索方法、論文の読み方や書き方についての力を獲得することを目的とする。授業のねらいとして、福祉における自身の問題意識や課題を整理したうえで文献を読み込み、まとめることで卒業論文を執筆する際のテーマを絞り込んでいくこととする。</p> <p>本演習においては、他者の意見に傾聴し、謙虚に受け入れることができ、自身の考えとの相違を理解したうえで、必要性を検討したうえで論文に取り入れることができるようになることもねらいとする。</p>							①④⑤⑥⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力							
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> 図書館やデータベースを使用し、関心ある福祉の問題について調べることができる 論文を執筆する意義を理解した上で論文とは何かを説明できる インターネットを活用して情報収集ができる 					レジュメ作成 授業におけるリフレクション	10% 10%
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> 関心のある福祉の問題について、それまでの背景や現状について説明することができる 他者の関心ある福祉領域に対して関心を持って聴くことができ、質問を行うとともに自分の意見を述べるができる 					授業におけるリフレクション レポート	30% 20%
協働・課題解決力	<ul style="list-style-type: none"> 他の学生が関心ある福祉の問題にも関心を持ち、議論に参加できる 国家試験の概要について他の学生と協働し理解し合うことができる 					授業におけるリフレクション レポート	15% 15%
多様性理解力							
出席						受験要件	
合計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>授業での発表については、レジュメに沿って聞き手に分かりやすい表現や内容であるか確認しながらフィードバックを行う（10%）。レジュメの作成については、授業発表時に使用するレジュメについて指示された文字数、体裁を守って作成できたか（10%）を評価する。授業におけるリフレクションは、授業における学びを通じて自身で考え、表出できているかを評価する。（45%）。レポートについては、授業内容や教科書の内容を理解し、自分の言葉で説明できているか（35%）を評価する。</p> <p>レポート等へのフィードバックは、manaba や E-mail を用いて行う。</p>							
授業の概要							
<p>いくつかの書籍や論文を読みながら、研究とは何か、論文とは何かについて学ぶ。発表を通し自分自身が興味ある分野を明らかにしていく。また、自分自身が興味ある分野で最近どのような研究が行われているか、取り組みが行われているかを調べ、発表を行う。さらに、卒業論文作成に向けて資料集めや国家試験学修に着手する。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない</p> <p>参考書：なし</p> <p>指定図書：齊藤孝・西岡達裕（2005）『学術論文の技法』日本エディタースクール出版部</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>本演習では、卒業論文が執筆するための基本的なルールや流れについて解説・助言を行っていく。また、自分自身の興味ある分野を明確にするために自発的に取り組んでもらうことになる。そのため、受講学生自身でレジュメやレポート、それに基づく発表などが本演習の題材となるため、準備を念入りに行うことを期待している。また、他者との関わりを重視するため、他者と協働して物事に取り組み課題に取り組むことも期待する。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション①	自己紹介、演習のねらい、目標、進め方、評価などの確認を行う	(予習) 自分自身の年間スケジュールを計画する (復習) 年間スケジュールを把握する
2	オリエンテーション②	年間スケジュール(前期)を発表し、把握し合う論文とは何か、論文執筆に取り組む意義を学ぶ文献購読に向けた役割を割り振る	(復習) 発表を受け、自分自身の年間スケジュールの修正を行う
3	文献の購読とレジюме作成 1	レジюмеの作成方法を学ぶ。文献を読み、レジюмеを作成する	次回の文献を読み、レジюме作成(発表者)、自分の考えをまとめる
4	文献の購読とレジюме作成 2	レジюмеによる文献の内容と自分の考えの発表、ディスカッションを行う	次回の文献を読み、レジюме作成(発表者)、自分の考えをまとめる
5	文献の購読とレジюме作成 3	レジюмеによる文献の内容と自分の考えの発表、ディスカッションを行う	次回の文献を読み、レジюме作成(発表者)、自分の考えをまとめる
6	文献の購読とレジюме作成 4	レジюмеによる文献の内容と自分の考えの発表、ディスカッションを行う	次回の文献を読み、レジюме作成(発表者)、自分の考えをまとめる
7	文献の購読とレジюме作成 5	レジюмеによる文献の内容と自分の考えの発表、ディスカッションを行う	次回の文献を読み、レジюме作成(発表者)、自分の考えをまとめる
8	文献購読の振り返り	文献の購読を振り返り、関心のある領域を整理する	関心のある領域のキーワードを5~7つに整理する
9	国家試験概要の理解	国家試験の概要について理解する	(予習) 社会福祉振興・試験センターのHPを閲覧し、SW・PSW・CWの概要を整理する
10	情報収集の準備	論文作成における情報収集の方法について学び、収集に着手する	文献を読み、テーマに関する概略的な知識を得る
11	これまでに学んだ知識の確認	キーワードをこれまでに学んできた福祉の知識と関連付ける。論文作成、実習を前に、これまでに学んだ知識を概観する	キーワードと知識を関連付けて整理し、テーマについて、発表準備をする
12	情報収集①	各自が関心ある福祉の問題について、問題の背景と研究テーマを発表し、ディスカッションを行う	研究テーマを明確にする
13	情報収集②	各自が関心ある福祉の問題について、問題の背景と研究テーマを発表し、ディスカッションを行う	研究テーマを明確にする
14	情報収集③	各自が関心ある問題から論文執筆に向けた絞り込みを行う	さらに読むべき文献を整理する
15	まとめ	前期の到達地点と、後期までにすべきことを確認する	今後のスケジュールを確認する

授業科目(ナンバリング)	専門演習 A (DA301)			担当教員	梅野 潤子		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本演習では、4 年次の卒業論文作成を見据え、研究テーマの設定から論文執筆に至る研究過程の全体像に対する理解を深めた上で、各自の研究テーマを設定することを目指す。本演習においては、児童福祉・児童ソーシャルワークに焦点を当て、子どもに関する社会問題・生活問題を洞察し、批判的に検討し、自分の意見を文章によって表現する訓練を行う。ディプロマポリシーに掲げられる社会の課題に対する思考力・判断力・表現力を活用し、主体的に問題解決を行う力を養成するために、ディスカッション・グループワーク・プレゼンテーション等の参加型学習を行う。</p> <p>前期においては、研究過程の理解や文献レビューの方法の習得を中心に取り組む。</p>							④⑤⑦⑩⑪⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法		評価比率
専門力	自身の研究テーマに関連する実践や政策の動向を理解し、説明することができる。				小レポート		5%
情報収集、分析力	児童福祉・児童ソーシャルワークに関する文献と実践経験を通じて、児童福祉実践の現状と課題を整理することができる。				授業への参加度 課題レポート		10% 10%
コミュニケーション力	自身の研究テーマに関して、文献レビューの報告やディスカッションを通じて、自分の考えを文章や口頭で表現することができる。				発言内容 ディスカッションへの貢献度		20% 20%
協働・課題解決力	児童福祉・児童ソーシャルワークに関する文献レビューや実践経験を統合し、実践をよりよくするための課題に取り組み、提言することができる。				授業への参加度 課題レポート		15% 15%
多様性理解力	子どもが置かれている多様な生活状況を理解することができる。				小レポート		5%
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>課題の報告及びディスカッションへの参加態度や発言方法・発言内容の適切さ (40%)、卒論研究に向けて課された小レポート・課題レポートの書き方や内容の適切さ (35%)、主体的な発言や取組等の授業への参加度 (25%) について総合的に評価する。授業中の私語や遅刻・欠席、課題の提出遅れ等は、減点対象となるため注意されたい。小レポート・課題レポートについては、次回の授業において内容をフィードバックする。</p>							
授業の概要							
<p>研究プロセスの全体像を概観した上で研究への準備を行い、各自の研究テーマを設定し、絞り込むために文献レビューを行う。教科書に沿って授業を展開し、個人ワークやグループディスカッションを通して、文献レビューの仕方、研究テーマの絞り方を学ぶ。12 回から 14 回においては、各自で入手した文献のレビュー結果について各回の担当者が資料を作成した上で報告し、質疑応答やディスカッションを行う。</p> <p>この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分である。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：梅野潤子 (2013) 『研究ってなんだろう—はじめて取り組むあなたのための論文作成ノート—』高学出版。 参考書：必要に応じて適宜紹介する。 指定図書：ピーター・フランクル (1997) 『ピーター流らくらく学習術』岩波書店。 池上彰 (2007) 『ニュースの読み方使い方』新潮社。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>本演習においては、児童福祉・児童ソーシャルワーク研究を進めるための考え方・知識・技術を学ぶことを目的としている。そのため、子どもに関する社会問題・生活問題に対する理解を深めるために、日頃から文献やニュース等の情報に関心を持ち、情報収集に努めることが期待される。</p> <p>また、児童福祉実践に関心を持ち、ボランティア活動に積極的に参加する等、現場における実践経験を積むことも重視する。児童福祉・児童ソーシャルワーク研究は、現場の実践をよりよくするために行われる社会的営みであることを十分理解した上で、受講生には実践と研究を結びつけることを意識しながら取り組んでもらいたい。</p> <p>なお、本演習では児童福祉・児童ソーシャルワークにおける研究方法を学ぶため、これらの分野を専門的に学ぶことを希望する学生の履修を期待する。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	本演習の目的と授業計画の説明を行う。 受講生の自己紹介、関心のあるテーマ等について発表する。	予習：シラバスを熟読し、自己紹介の内容を準備する。 復習：関心のあるテーマに関する新聞記事を検索する。
2	研究について考えよう①	研究の意義について考える。 受講生同士で、研究の意義に関する意見交換を行う。	予習：教科書1章1節を読み、研究の意義を理解する。 復習：研究の意義について自分の考えをまとめる。
3	研究について考えよう②	一般的な研究の進め方について学ぶ。 研究プロセスの各段階の留意点について理解することができるように、解説及び意見交換を行う。	予習：教科書1章2節を読み、研究の進め方を理解する。 復習：研究のプロセスについて理解したことを文章化する。
4	研究の準備をしよう①	研究を始めるための準備として、自立学習の仕方を理解し、研究環境の振り返りを行う。 各自の研究環境に関する一覧表やマップ作成を行い、受講生同士で共有する。	予習：教科書1章3節1,2を読む。 復習：教科書p.23に従って自身の研究環境を整える。
5	研究の準備をしよう②	ゼミ活用法として、ゼミの目的や学習効果を高めるためのポイントについて学ぶ。 グループディスカッションを行う際の問題への対処法について、意見交換を行う。	予習：教科書1章3節3を読む。 復習：ディスカッションを行う際の自分の役割について振り返る。
6	研究の準備をしよう③	研究指導の活用方法について解説する。 指導者からのフィードバックの受け方・活用の仕方について意見交換を行う。	予習：教科書1章3節4を読む。 復習：フィードバックを活用する際の自身の課題を考える。
7	研究テーマを考えよう①	研究テーマの決め方について理解した上で、研究テーマのヒントとなる各自の関心を探り、意見交換を行う。	予習：教科書2章1節を読む。 復習：関心のあるテーマを考え、教科書p.49,52に記入する。
8	研究テーマを考えよう②	研究テーマの絞り方について学び、研究テーマを設定する上での諸条件について各自で考える。 ※小レポートの提示	予習：教科書2章1節を読む。 復習：小レポートを作成する。
9	先行研究のレビュー①	先行研究のレビューの目的・方法・手順等について学ぶ。 研究テーマに関するキーワードをについて考える。	予習：教科書2章2節1,2,3を読む。 復習：教科書p.55にキーワードを記入する。
10	先行研究のレビュー②	文献検索の方法について学ぶ。 オンライン文献検索システムを活用し、文献検索を体験する。	予習：教科書2章2節pp.56-59を読む。 復習：文献検索システムを使い、関心のある文献を入手する。
11	先行研究のレビュー③	参考文献の書き方、文献の読み方、レビューノートの書き方を学ぶ。 各自で入手した文献を用いて、レビューを行う。	予習：入手した文献を読む。 復習：文献レビューノートを作成する。
12	文献レビューの報告①	受講生同士で、各自が文献レビューした結果を報告し合い、意見交換をする。 文献レビューの結果を踏まえて、さらに読んでみたい文献を調べる。	予習：文献レビューの結果を報告するための準備を行う。 復習：文献レビューノートを作成する。
13	文献レビューの報告②	受講生同士で、各自が文献レビューした結果を報告し合い、意見交換をする。 文献レビューの結果を踏まえて、さらに読んでみたい文献を調べる。	予習：文献レビューの結果を報告するための準備を行う。 復習：文献レビューノートを作成する。
14	文献レビューの報告③	受講生同士で、各自が文献レビューした結果を報告し合い、意見交換をする。 文献レビューの結果を踏まえて、自身の研究テーマを絞り込む。※課題レポートの提示	予習：文献レビューの結果を報告するための準備を行う。 復習：課題レポートを作成する。
15	前期のまとめ	前期の学習内容の振り返りを行い、現時点での研究テーマを設定する。 夏季休暇中に読む文献リストを作成し、計画を立てる。	予習：これまでの文献レビューを踏まえて研究テーマについて再考し、教科書p.52に記入する。 復習：リストアップした文献を入手する。